

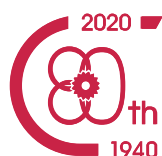
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

地域連携報告書

光華女子学園

環境報告書

令和3年度版



華の煌き この未来も

学校法人光華女子学園

Index

地域連携報告書・環境報告書

1. 「摂取不捨」と「SDGs」	01
2. 光華女子学園の概要	02
3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から	03
3.1 社会環境に対応した地域貢献を目指して	03
3.2 今こそライフスタイルの変換を	03

地域連携報告書

4. 地域連携活動	04
4.1 地域との連携協定締結	05
4.2 地域連携の取組	06
4.3 右京区や周辺地域との連携活動	09
4.4 公開講座	11
4.5 「学まち連携大学」促進事業	13
4.6 光華もの忘れ・フレイルクリニック	14

環境報告書

5. エコキャンパスの推進	15
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量	16
① 電気エネルギー消費量	
② ガスエネルギー消費量	
③ 水道水使用量	
④ ガソリン消費量	
⑤ 軽油消費量	
⑥ 廃棄物排出量	
5.2 KOKA エコアワード	19
6. 各校園の環境教育・環境活動	22
6.1 光華幼稚園	23
① 野菜、果物の栽培収穫	
② 廃材の再利用	
③ 自然の物で遊ぼう	
6.2 光華小学校	27
① 環境委委員会の取組	
② 小学校全体としての取組	
6.3 京都光華中学校・高等学校	29
① 京都光華女子大学被採択プログラムへの参加	
6.4 京都光華女子大学・短期大学部	30
① 大学等コアリションへの参画	
② JST 助成事業	
「女子中高生の進路選択支援プログラム」が2年目に入りました	
7. 第三者によるご意見	32
7.1 地域連携報告書に寄せて	32
7.2 環境報告書に寄せて	32

地域連携報告書・環境報告書

1. 「^{せつしゆ ふ しゃ}摂取不捨」と「SDGs」

2020年1月上旬に日本で初めて感染が確認された新型コロナウイルスの感染症は、2年を経てなお全国に広がりを見せています。この間何度か終息の兆しも見られましたが、変異株として形を変えつつ今も第6波の大きな山を描きながら感染者は増加し、一日の感染者数はついに10万人を超えました（本年2月4日現在）。皆さま方にはご家族やご友人なども含めて、コロナウイルスが忍び寄り、すでに感染してしまったという方もおられるかもしれません。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早くこの厄介な感染症が終息して、窮屈な生活から解放され、平穏な日々に戻ることを念じ上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの話題が世の中を席卷するなかで、東京オリンピック・パラリンピック2020が1年遅れて開催されました。そして本学園でも1年遅れで創立80周年記念式典を開催し無事終えることができました。感染防止に最大限配慮し、規模も縮小しての開催となりましたが、卒業生や学園関係者の皆様とご一緒に、80周年を寿ぐことが出来ました。しかし世の中に目を転じると、不幸な哀しい出来事が頻繁に見られたのは至極残念であります。親が幼いわが子を虐待して死に至らしめたり、中学生が同級生を殺害するという事件がありました。将来のある若い命が奪われるという事件には心が痛みます。さらに昨今の社会的現象として、他人の失敗や欠点を見つけてはインターネット上で批判し、しかも自分の名前や顔を伏せたまま集団になって、その人を徹底的に追い詰めて命を奪うという事件すら見られます。なぜ、このように命が軽視される世の中に変貌してしまったのでしょうか。いつから人間は、これほどまでに他者を許容できない存在になってしまったのでしょうか。

光華女子学園は、昭和14年9月、東本願寺の故大谷智子裏方（昭和天皇妃-香淳皇后-の妹君）により「仏教精神に基づく女子教育」を建学の精神として設立された真宗大谷派の宗門関係学園です。校訓の「真実心」は、み仏の心すなわち慈悲の心であり、おもいやりの心を意味しますが、これは「摂取不捨」という言葉にも通じます。「摂取不捨」とは『観無量寿経』の聖句で「(阿弥陀仏は) この世に生きているものすべてを決して見捨てない」という意味です。現代経済社会は、そもそも私利を追求する人間観により組み立てられ、そこには利他的人間観は存在しません。従って経済効率を最優先にして「できるか、できないか」で人の価値をも決めてしまいます。世界には何らかの障害を持った方々が全人口の15%もおられますが、あらゆる人々が社会の構成員として支えあうとともに、なによりも不殺生や非暴力を尊重する社会でなければなりません。人々は真の幸福を追求するためにも、誰一人も見捨てないインクルーシブな社会を目指さなければならないのです。

2015年に国連から発表されたSDGs（持続可能な開発目標）の理念は、「誰一人取り残さない」ですが、本学園はSDGsという言葉が誕生する以前から、校訓「真実心」と「摂取不捨」を建学理念として教育・研究・社会貢献活動を推進してまいりました。これらの活動は学外からも高い評価をいただき、2025年大阪・関西万博の理念である「いのち輝く未来社会のデザイン」と完全に一致することから「TEAM EXPO 2025プログラム 共創パートナー」に登録されることとなりました。

本書は2021年度の地域連携活動、環境教育・環境活動の一部を掲載したものです。光華女子学園は、これからも「摂取不捨」の理念のもとに、誰もが支え合い幸せになる社会の実現に向けて、地域の皆さまと手を携えて歩んでまいります。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



光華女子学園 学園長・名誉理事長
阿部 敏行

2. 光華女子学園の概要

【沿革】

- 昭和14年 9月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
- 15年 4月 1日 光華高等女学校開設
- 19年 3月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
- 20年 3月29日 高女同窓会「激清会」発足
- 22年 3月15日 女専同窓会「ふかみくさ」発足
- 22年 4月 1日 学制改革により光華中学校開設（光華高女より）
- 22年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称
- 23年 4月 1日 学制改革により光華高等学校開設（光華高女より）
- 25年 4月 1日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置
- 26年 2月28日 学校法人光華女子学園設立認可
- 29年 4月17日 光華衣服専門学院開設
- 39年 4月 1日 光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）
- 40年 4月 1日 光華幼稚園開設
- 43年 4月 1日 光華小学校開設
- 62年 4月 1日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
- 平成元年11月15日 総裁大谷智子裏方選淨（83才）
- 3年 4月 1日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
- 5年 4月 1日 短期大学、家政科を生活学科に改称
- 6年 4月 1日 大学、文学部に人間関係学科を開設
- 6年11月22日 光華衣服専門学院廃校
- 7年 4月 1日 短期大学、生活学科に4専攻を設置
- 9年 4月 1日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
- 10年 4月 1日 光華女子大学大学院開設
文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻を設置
- 12年 4月 1日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境学科に改称
光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称
英米文学科を英語英米文学科に改称
- 13年 4月 1日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校へ校名変更
大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科を設置
- 14年 4月 1日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部人間健康学科を設置
- 15年 4月 1日 大学、人間関係学部社会科学部を改組、人間関係学部人間健康学科を設置
- 16年 4月 1日 大学院に人間関係学研究所（修士課程）を設置
京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究所附属施設）開設
- 17年 4月 1日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設
- 18年 4月 1日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置
ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定
短期大学部にこども保育学科を設置
- 20年 4月 1日 大学、人間関係学部人間科学部に改称
大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称
大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
- 22年 4月 1日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、健康科学部を設置
人文学部に文科学科、心理学科を設置
キャリア形成学部キャリア形成学科を設置
健康科学部に健康栄養学科を設置
- 23年 4月 1日 大学、健康科学部に看護学科を設置
- 25年 4月 1日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設
地域連携推進センター・環境教育推進室を開設
- 26年 4月 1日 大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、心理学科を開設
大学院、人間関係学研究所を心理学研究科に改称
- 27年 4月 1日 大学院に看護学研究所を設置
短期大学部 こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こども教育学科を設置
- 28年 4月 1日 女性キャリア開発研究センターを開設
- 30年 4月 1日 大学に助産学専攻科を設置
- 31年 4月 1日 大学・短期大学部にリベラルアーツセンターを開設
- 令和 2年10月30日 富士小路まちやキャンパスを開所
- 令和 3年11月15日 光華もの忘れ・フレイルクリニックを開業

【学生・生徒・園児数（2021年5月1日 現在）】

大学院	22人
大学	1,903人
短期大学部	157人
高等学校	390人
中学校	114人
小学校	223人
幼稚園	207人
合計	3,029人

【教職員数（2021年5月1日 現在）】

区分	専任等	非常勤等	合計
大学院・大学	108人	178人	286人
短期大学部	11人	13人	24人
高等学校	33人	35人	68人
中学校	9人	7人	16人
小学校	20人	9人	29人
幼稚園	18人	10人	28人
職員	94人	49人	143人
合計	289人	301人	590人

【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。また最寄りの阪急京都線「西京極」駅からは閑静な住宅街を抜け徒歩約7分です。

◆校地面積（2021年5月1日 現在）

北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
合計	71,772.99㎡

◆校舎面積（2021年5月1日 現在）

北校地	37,345㎡
南校地	23,092㎡
大原野グラウンド	436㎡
合計	60,873㎡

【所在地】

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7分



3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から

地域連携推進センターは、地域との共生や活気あるエコキャンパスの実現をはかる拠点として、産官学連携によるまちづくりや地域の課題解決の他、本学の教育特性や知的財産を活かした公開講座及び、イベント等の開催をとおり、地域貢献、社会貢献を推進しています。

3.1 社会環境に対応した地域貢献を目指して

2020年冬に始まった新型コロナウイルスは2021年も変異しながら世界中に広がり、収束に向けては未だに不透明な状況が続いています。昨年度は延期した公開講座でしたが、今年度はオンライン配信での実施や感染防止対策を行ったうえで、定員を制限して実施しました。昨年度採択された「学まち連携大学」促進事業「京で学び・京で働き・京に暮らす～地域連携型プログラムの展開～」も、感染状況を考慮して計画にあわせて取り組みました。こんな時だからこそ必要な情報の提供や、withコロナの日常生活に対応していきたいと考えています。

本センターは女性キャリア開発研究センターと協力して、リカレント教育を地域に提供しています。今年度、文部科学省が厚生労働省と連携し、全国の大学に向けて「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」の募集を開始したのを機に、本学は「多様な知識で貢献する次世代ケアワーカー育成プログラム」に取り組みました。地域の方の受講が増えたことは、地域ニーズにあわせた教育を提供できた成果と考えます。また、健康創造キャンパスを目指し「光華もの忘れ・フレイルクリニック」を開設しました。今後も、地域の皆様のお役に立てるよう社会環境に対応した地域貢献を模索していきたいと思えます。

地域連携推進センター長
吉田 咲子



3.2 今こそライフスタイルの変換を

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、私たちの生活は大きな制限を余儀なくされることとなりました。学校機関では、これまで経験のなかったオンライン授業を急遽実施することとなり、会議や出張なども大部分がオンライン化しました。また、私たちの食生活はどうでしょうか。自粛生活により外食する機会はほとんどなくなったと思います。このような急激な変化により、学校や飲食業のみならず、あらゆる業界が大きなダメージを受けたことと思います。一方で、例えば、大学ですとオンライン留学のように日本にいながら海外の大学の授業を受けることができる制度を整えたり、外食産業の場合、宅配サービスを充実させたりと、努力と工夫でこの難局を乗り越えようとしています。

実は、この1年間の全世界のCO₂等温室効果ガスや人為起源エアロゾル等の排出量は産業革命以降前年比で最も大きく減少しました。食品ロスについても、データの出所によって見解が異なるものの、ロスが減ったという報告もいくつかあります。私たちは感染拡大によって半ば強制的に工夫を強いられたことで、意外な副産物を得たと言えるでしょう。もちろん、失ったものの方がはるかに大きいことは言うまでもありませんが、こういう状況にこそ、環境問題を解決するヒントがあるのかもしれない。

環境教育推進室長
高野 拓樹



4. 地域連携活動





4.1 地域との連携協定締結

光華女子学園では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他、各種団体と連携協定を結んでいます。今年度は、下記の協定を結びました。

協定締結日	締結先	協定名
2021年5月14日	京介食推進協議会	京介食推進協議会と産学連携プロジェクトに取り組むための包括協定
		京介食推進協議会と本学研究チームの連携と協力を充実・強化することにより、嚥下調整食及び機能性食品の開発と普及活動を産学連携によって推進することを目的としている。
2021年10月7日	株式会社 エイデル研究所	リカレント教育「次世代ケアワーカー育成プログラム」に関する協定書
		本学と株式会社エイデル研究所がそれぞれの持つ専門分野を活用して相互に連携し、福祉現場の現状と未来・社会的意義の周知により、福祉職の地位向上を目指した人材育成を目的とした協定。
2022年3月1日	京都市	京都市と京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部とのふるさと納税を活用した大学・学生と地域の連携強化等に関する協定書
		「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上に向け、ふるさと納税を活用した大学・学生と地域の連携強化等を進めることを目的としている。

【これまでの締結一覧】

協定締結日	締結先	協定名
2010年11月7日	葛野学区自主防災会	葛野学区自主防災会との協定 - 大規模災害発生時における地域協力に関する協定 -
2011年11月4日	右京区役所、5つの大学	右京区大学地域連携に関する協定（5つの大学：京都外国語大学、嵯峨美術大学、花園大学、京都先端科学大学、立命館大学（2015年4月8日京都学園大学を追加））
2013年7月17日	高知県嶺北地域観光・交流推進協議会	嶺北地域観光・交流推進協議会との連携協力に関する協定
2014年3月8日	右京区役所、右京消防署	右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」
2014年5月30日	京都府立東稜高等学校	京都府立東稜高等学校との協定
2015年12月8日	京都市教育委員会	京都市教育委員会との相互連携に関する協定
2017年7月19日	京都府右京警察署	地域の安全・安心等に関する協定
2018年4月1日	株式会社ノーリツ	株式会社ノーリツとの「おふろ部」に関する覚書

4.2 地域連携の取組

■ 産官学連携プロジェクト

地域連携推進センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講しました。この科目は、大学の基礎・教養科目に設定されているため、すべての大学生が受講することができます。実際の課題をプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を要請すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、大手企業、地域の中小企業や商店街、NPO、福祉法人、学校など多岐に渡ります。

2021年度に開講された「産官学連携プロジェクト」

a	(テーマ) 地域との連携を通じた学びと成長	(連携先) 京都三条会商店街
	(担当教員) 西 孝一郎 (こども教育学科)、吉田 咲子 (キャリア形成学科)	
	京都市中京区にある「京都三条会商店街」と本学は、これまで各種イベントの開催を通じて地域との交流を図ると同時に、同商店街の賑わいに貢献してきた。これまでの活動から、改善点や新企画を検討し、事業の質の向上を目指し、学生のプロジェクト推進能力やコミュニケーション能力等を養成することを目的とする。7/3(土)、連携先の「三条会の日」に合わせ、「めざせ三条会商店街クイズ王スタンプラリー」を実施。	
b	(テーマ) 地域との連携を通じた学びと成長	(連携先) 東洋竹工株式会社・京都市洛西竹林公園
	(担当教員) 高野 拓樹 (キャリア形成学科)、金治 宏 (キャリア形成学科)	
	荒廃が進む竹林問題に焦点を当て、竹とその歴史や有効利用について学び、持続可能な竹林整備について活動などを通じて考察する授業。12月17日には学内有志の2チームと協働し、イベント「竹姫 光の物語'21」バンブーキャンドル&プロジェクションマッピングを実施した。同イベントで学修成果をまとめたポスターを掲示するなど、地域との交流を通じてプロジェクトの実践力を身につけた。	
c	(テーマ) 仁和寺の伝統と魅力ー 文化財を活用した寺院経営の新戦略	(連携先) 真言宗御室派仁和寺
	(担当教員) 朝比奈 英夫 (キャリア形成学科)	
	コンソーシアム京都が主催する世界遺産PBL科目の一環として、右京区の世界遺産「仁和寺」を対象とした授業。僧侶による仁和寺の経営戦略についての講義、学芸員による文化財についての講演を聴講し、グループに分かれて若者視点から見た仁和寺の魅力を高める施策を提案、仁和寺の境内見学、僧侶へのインタビューを踏まえて、「成果報告会」で発表。本学学生の他、立命館、大谷、京都産業の各大学の学生も参加した。	

【産官学連携プロジェクト活動の様子】



三条会商店街でのイベント



竹林公園でのフィールドワーク



グループで討議した内容を発表 (仁和寺)



■ 各学科の取組

本学では「産官学連携プロジェクト」だけでなく、各学科の特性・専門性に応じて、さまざまな連携科目を開講しています。

(テーマ) 自治連合会活動を通じた地域社会に関わる様々な情報共有	(連携先) 京都市中京区富有自治連合会、京都市中京区社会福祉協議会
(担当教員) 青木 正明 (ライフデザイン学科)	
京都市内番組小学校の時代より自治活動を積極的に行っている富有学区自治連合会の地域活動を、体育振興会・自主防災会・消防分団などが主催する活動イベントのお手伝いや参加を地域の方と一緒に行うことで、次の2点についての知識を取得する。①この地域に伝統的に根付いている地域活動の重要性を学習する。②積極的に活動しているこの地域でさえも存在する課題や問題を知り共有する。	
(テーマ) ユーザー視点で地域にふれて課題を発見する	(連携先) 今熊野商店街振興組合、京都府商店街創生センター
(担当教員) 羽深 太郎 (ライフデザイン学科)	
京都市東山区にある今熊野商店街、京都府商店街創生センターと行う産学連携授業。「女子大生の視点で商店街の魅力を発掘する」をテーマに、学生にとって身近な Instagram を通じてアピールできる商店街の魅力について、学生が商店街や周辺地域を理解し、ベンチマークを行い、最終的には実際に訪問して記録した写真や動画をまとめて商店街に報告する。	
(テーマ) 京都に関係の深い伝統文化を体験し、人間性を育む	(連携先) 桂 文也 (落語家)、鈴木 実 (狂言師)、カーロイ・オルショヤ (百人一首)
(担当教員) 相場 浩和 (ライフデザイン学科)	
京で生まれた伝統文化「落語」「狂言」「百人一首」をそれぞれ専門家を招いて体験しながら学ぶ授業。落語の授業では、毎回、プロの落語家に京都を舞台にした落語を演じてもらい、狂言ではできるだけ現代語風にわかりやすく解釈した狂言を演じてもらい、学生が理解しやすい工夫を施した。	
(テーマ) 地域が抱える問題の調査・収集と共有	(連携先) 吉備中央町、阪急交通社
(担当教員) 鹿島 我 (ライフデザイン学科)	
岡山県吉備中央町と阪急交通社と協働で行う産官学連携授業。阪急交通社よりツアー企画の手法を学んだ学生が観光資源に乏しい吉備中央町を訪れ、民泊や視察を行い、同町を舞台にしたツアーを企画。阪急交通社社員と吉備中央町の関係者に対してプレゼンテーションを行う。優秀なツアーが提案されれば、その実現に向けての検討が行われる。	



テーマ「女子大生の視点で商店街の魅力を発掘する」フィールドワークの様子



「京の伝統文化を創る」実演

(テーマ) 「野菜たっぷり弁当」の販売		(連携先) イオンリテール株式会社近畿カンパニー	
(担当教員) 齊藤 曜子、桑島 千栄、小島 菜実絵、下山 亜美 (健康栄養学科)			
京都市では、2018 年から市民の野菜摂取と健康への意識を高めることを目的に「『そうだ、野菜とろう!』キャンペーン」を実施しており、これに合わせ、健康栄養学科の学生が『野菜たっぷり弁当』を考案しました。この弁当は、『健康長寿のまち・京都市民会議』に協賛する、イオンリテール株式会社近畿カンパニーと京都市内の管理栄養士養成校3校(本学、京都女子大学、同志社女子大学)が協働し、『そうだ、野菜とろう! 1日目標の1/2野菜がとれる』お弁当6品目として、近畿地区の「イオン」「イオンスタイル」86店舗にて販売されました。			
商品概要	【第1弾】『たっぷり野菜とバジルチキン弁当』[598円+税]		
	販売期間	6月2日(水)～6月15日(火)	
	レシピ考案者	健康栄養学科4年 岩本 実桜さん、神原 有希さん、小木戸 彩香さん	
	【第2弾】『いろいろ野菜と豆腐ハンバーグ弁当』[598円+税]		
	販売期間	6月16日(水)～6月29日(火)	
	レシピ考案者	健康栄養学科4年 饗庭 衣泉さん、家原 穂さん、岡部 純奈さん、地村 真穂さん	

[紹介動画]

<https://youtu.be/wmDIUNTEiDM>



第1弾お弁当



パッケージステッカー



イオンスタイル京都桂川でのメディア取材

「TEAM EXPO 2025」プログラムに“共創パートナー”として参画

京都光華女子大学は、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会が大阪・関西万博の開催に向け、開始した「TEAM EXPO 2025」プログラムに共創パートナーとして登録しました。「健康・未来創造」「女性活躍」を推進する女子大学として、SDGsを達成するとともに、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に学生・教職員一同全力で取り組みます。

本学では、開学以来、建学の精神である「仏教精神に基づく女子教育」を実践し、「おもいやりの心」を持った自立した女性を育成してきました。また、2020年9月には学園創立80周年を迎え、その節目に「光華ビジョン2030」を策定。ワクワクする学園を目指して、Society5.0時代を切り拓きSDGsの実現を担う光華教育を実践しています。本学の建学の精神や学園が目指す将来像と大阪・関西万博のテーマがマッチすることから、本プログラムへの参加を決めました。

「TEAM EXPO 2025」プログラムは、大阪・関西万博の開催に向けて、さまざまな参加者が主体となって、理想としたい未来社会を共に創り上げていくことをめざす取り組みです。本学は「健康創造社会」の実現に向け、「食」「運動」「知育と家族」をテーマに据えて、本学の学生と教職員が一丸となって、市民に生活習慣や健康意識の変容を促していく取り組みを創出・支援していきます。また、健康と接点のある主要企業・団体・他大学はもちろん、近隣自治体、提携する諸外国の協定校に対しても「健康創造キャンパス」の門戸をひらき、これらの健康創造に関するすべての活動を「共創チャレンジ」として加速させ、新たな健康価値を創造していきます。





4.3 右京区や周辺地域との連携活動

① 右京区まちづくり支援制度

本学は、この右京区が主催する助成制度に平成22年度から申請し、これまで多くの提案事業が採択されています。採択された提案事業を推進するプロセスはもちろん、申請書類を提出し、公開プレゼンテーションで審査を受け、活動終了後に最終報告会で発表することは、授業では習得することができない実践的な学びがあります。

採択事業（2021年度）

光華子育て支援かがやき隊	
事業名	「オンラインによるかがやき隊子育て支援講座」
担当教員	和田 幸子（こども教育学科）
概要	「光華こどもひろば」をはじめ、学内外で子育て支援の取り組みを行う団体である。今年度は感染症対策を講じながら対面開催をしているものの、十分に地域の子育て世代に貢献できていないため、「ミニ子育て支援講座」をオンラインにて実施し、学外講師による特別企画「見て聴いて楽しむオルゴール」をYouTubeにて配信。
KOKA ☆オレンジサポーターズ	
事業名	「お口の介護予防（オーラルフレイル予防）を応援しよう！」
担当教員	関 道子（医療福祉学科言語聴覚専攻）
概要	<p>コロナ禍において、人と話をする機会が減少している地域の高齢者の方々を対象に、口腔機能の低下を予防し、いつまでもおいしく安全に食べ続けることの啓発を行うことを目的に、以下の事業を企画・実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学でのお口の介護予防サロンの開催 2) お口の介護予防についてのパンフレット作成 3) 地域の高齢者との「オンラインおしゃべり会」の開催 <p>これらの事業は、右京区地域介護予防推進センター・右京区社会福祉協議会と協働して行った。 *この活動は、右京区「健康長寿のまち・京都市いきいきアワード 2021」の奨励賞を受賞しました。</p>



お口の介護予防パンフレット



「光華こどもひろば」の対面開催



特別企画「見て聴いて楽しむオルゴール」の取材

② サンサにこにこ広場

サンサにこにこ広場実行委員会事務局（右京区役所健康長寿推進課担当）は、子どもたちの健やかな成長と安心して子育てできる環境づくりを推進していくため、「サンサにこにこ広場」を例年秋季に右京地域体育館で開催しています。今年度は11月9日(火)にこども教育学科4年生が参加しました。

第12回右京子育てサロン サンサにこにこ広場	
参加企画	学生による手遊び、パネルシアター
担当教員	永本 多紀子（こども教育学科）
企画運営	こども教育学科4年 須藤 遥香さん、木原 明日香さん、木村 茉莉さん、古川 裕里可さん
<p>0～3歳児とその保護者が、各ブースで様々な遊びを体験できる「サンサにこにこ広場」は、今年度は感染症対策に配慮し、スタンプラリー形式で実施されました。企画の出展には様々な制約があり、右京区健康長寿推進課と協議を重ね、参加者が滞留せずに楽しめる企画が求められました。一つ一つが短い実演にも、多くの親子連れが参加し、学生は地域の方と楽しく交流することができました。対面での交流が難しい昨今、学生にとっては地域の子育て支援デビューの貴重な機会となりました。</p>	



「さかながはねて」「山の音楽家」などの手遊び



絵本「みどりのぼうし」をアレンジした「きいろのぼうし」

③ 右京区制90周年記念式典感謝状

右京区制90周年を記念し、右京区から本学に感謝状が贈られました。今後も地域に存在する大学として、地域とともにまちづくりに関われるよう各種取り組みの継続に努めてまいります。



④ 葛野自治会連合会との連携

今年度は、本学が位置する葛野学区が50周年をむかえ、葛野自治会連合会との連携が増え、連合会主催のイベントに学生・教職員が参加するだけでなく、本学のイベントに自治会員が参加するなど相互に関係することができました。実施・参加した連携活動

実施日	行事	内容
11月7日	葛野学区自主防災会総合防災訓練	地域の集会所での情報収集、葛野小学校への避難訓練、避難所運営訓練に参加
12月17日	竹姫'21 光の物語	※葛野まちづくりプロジェクト

■ 葛野学区と学生をつなぐ「葛野まちづくりプロジェクト」の活動

「葛野まちづくりプロジェクト」は、キャリア形成学科の学生を中心に、地域と学生の交流を促進する取り組みをしています。大学が地域社会の一員として存在しながら、葛野学区の住民のみなさんとの交流があまり多くないことに問題意識を持ち、「葛野学区と学生をつなぐ」ことを目標にしています。

コロナ禍で活動が制約されるなか、12月17日に本学構内で開催した交流イベント「竹姫'21 光の物語」では、バンブーキャンドル&プロジェクションマッピングと竹を使ったワークショップなどを学生が企画・運営し、多くの地域のみなさんの参加がありました。イベントでは、学生への期待や思いをつづったメッセージカードを地域のみなさんに貼りだしてもらった企画を実施するなど、次へとつながる働きかけもしました。



プロジェクションマッピング



「竹姫'21 光の物語」案内フライヤー



4.4 公開講座

本学では、知的財産である本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として、各種公開講座を提供しています。講座の一つである京都光華まちづくり講座は、今年度は「コロナ禍での地域共生」というテーマで、より地域に身近な話題で講座を実施しました。今年度は感染症拡大防止の観点から、やむを得ず開催延期・中止とした講座もありましたが、いくつかは規模を縮小し、対策を講じながら実施しました。

開催した公開講座（2021年度）

実施日・会場	講題・講師
2021年5月29日 京都光華まちづくり講座 (まちやキャンパス) ライブ配信	京都発 美味しい介護食（嚥下調整食）をつくる・広げる取り組み ～京介食推進協議会×京都光華の産学連携～
	荒金 英樹氏（京介食推進協議会会長／愛生会山科病院 外科部長） 上田 孝博氏（京都府生菓子協働組合研究部理事） 吉川 秀樹氏（健康栄養学科教授） 関 道子氏（医療福祉学科准教授）
2021年6月12日 京都光華公開講座 (本学小講堂) ライブ配信	医療・介護・福祉の連携による認知症への取り組み～予防から診断・支援まで～
	秋口 一郎氏（京都認知症総合センタークリニック顧問 本学客員教授）
2021年7月3日 京都光華公開講座 (本学光風館講堂)	現代社会で求められる国語力の育て方
	谷本 寛文氏（こども教育学科教授）
2021年7月17日 京都光華まちづくり講座 (本学太子堂) ライブ配信	「地域ぐるみで支える子どもの育ち」を考える ～子ども家庭を支えるソーシャルワーク最前線～
	村井 琢哉氏（特定非営利活動法人醍醐こどものひろば理事長） 福崎由貴子氏 (特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば子どもサポートスタッフ) 松井 章子氏（ふれあいカフェ「トトハウス」店長）
2021年8月4日 まちや特別講座 (まちやキャンパス)	外国料理と比較した健康的な日本料理 ～老舗日本料理店が表す日常生活に生かせるポイント～
	中村 元計氏（京料理一子相伝なかむら）
2021年9月16日 京都光華文化講座 (まちやキャンパス) ライブ配信	女子高での学び、その後との活躍～卒業生と語る
	大西裕美子氏（卒業生） 横田真知子氏（卒業生）
2021年10月30日 京都光華文化講座 (京都アカデミアフォーラム in 丸の内) ライブ配信	女子高での学び、その後との活躍～卒業生と語る
	友近 綾子氏（卒業生） 河野モドルーシャン千佳世氏（卒業生） (この会は、80周年記念行事において同時中継されました)

2021年11月27日 京都光華まちづくり講座 (本学太子堂) ライブ配信	浄土真宗と浄き食 難波 教行 氏 (真宗大谷派 (東本願寺) 教学研究所)
2022年2月4日 アスニー特別講演会 (京都市生涯学習総合センター)	万葉集を読む—夫婦の愛、親子の愛 朝比奈英夫 氏 (キャリア形成学科教授)
2021年6月～3月 隔週金曜 教養講座 (まちやキャンパス)	「源氏物語を読む」 山本 登朗 氏 (本学文学部元教授)
2022年3月21日 公開講座 (徳風館小講堂) ライブ配信	「認知症とフレイル予防」 1部 [基調講演] 講 題:「認知症とフレイル予防」 講 師:秋口 一郎 氏 (京都認知症総合センタークリニック顧問 本学客員教授) 2部 [パネルディスカッション] テーマ:「フレイルを予防し、健康寿命を延ばそう」 コーディネーター: 上田 敬太 氏 (医療福祉学科教授、光華もの忘れ・フレイルクリニック院長) パネリスト: 秋口 一郎 氏 (基調講演講師) 石川 光紀 氏 (石川医院院長) 関 道子 氏 (医療福祉学科准教授、言語聴覚士)

【講座の様子】



京都光華まちづくり講座での対談の様子



京都光華公開講座では学生によるピアノ演奏も



4.5「学まち連携大学」促進事業

2020年、京都市及び（公財）大学コンソーシアム京都の「学まち連携大学」促進事業に採択された本学の取組「京で学び・京で働き・京に暮らす～地域連携型プログラムの展開～」では、2年目の事業を下記のとおり実施しました。本学では、これまでの地域と連携した教育を展開し、学生の京都定着と卒業生や地域住民の再就職及びキャリアアップを目指すべく、学生に向けた授業や社会人を対象に下記取組を実施しています。

■2021年度の取組

項目	内容
まちやサテライト キャンパス活用	キャンパスを利用した科目 地域連携型科目：「ライフデザイン特論 b」、「プロジェクト実践」、「産官学連携プロジェクト」 各種講座：まちづくり講座、まちや特別講座開催、文化講座、ワークショップ ＊まちやキャンパス使用例参照
地域連携型教育の拡大	継続実施している5科目「ライフデザイン・コンピテンシーⅠ」、「京の伝統文化を創る」、「くらしに生きるものづくり」、「学生が創る地域 C」、「商品企画論」に加え、以下の5科目を新たに開講。 ①ライフデザイン特論 b（京町屋の構造と日々の暮らし） ②ライフデザイン特論 f（京の食べ物から知る日々の暮らし） ③パッケージデザイン演習 ④ライフデザイン・コンピテンシーⅡ b（富有学区自治連合会） ⑤ライフデザイン・コンピテンシーⅡ c（今熊野商店街）
リカレント教育	リカレント教育の継続実施、1day・2day インターンシップ実施



「京の伝統文化を創る」落語家による講義



社会人リカレント生のインターンシップ参加

富小路まちやキャンパス（中京区富小路御池下ル松下町）使用例

京都の伝統的な住まいである町家で、学生・生徒・児童・園児 に対する教育活動を実施していくために、2020年10月に開設された「富小路まちやキャンパス」では、授業や、学生の企画発表、各種講座やワークショップ、卒業生を交えた意見交換会の会場として使われています。



「プロジェクト実践」の企画「華子家」

まちやキャンパス今年度使用例	
7月22日 7月23日	<p>正課授業「プロジェクト実践」(担当教員: 栗山文孝 キャリア形成学科非常勤講師)</p> <p>学生企画として、「箱庭スイーツワークショップ」、京和菓子、ハンドメイドヘアアクセサリや化粧品パフ、かき氷販売が楽しめる2日間限定で店舗「華子家」を実施。まちやの設えを生かした店舗企画から運営まで、学生各自が役割をもってチームで取り組むことを体験した。</p>
8月4日	<p>「まちや特別講座」(講師: 京料理一子相伝なかむら 中村元計氏)</p> <p>公開講座の一つとして、周辺地域の活動をまちやキャンパスから発信する「まちや特別講座」を実施(演題: 外国料理と比較した健康的な日本料理)。博士課程で研究し、日本料理の第一線に行く専門家の講義内容を聞く機会は少ないと、熱心な社会人が参加。店舗の従業員の協力も得ながら、質疑応答で交流。</p>
7月14日 8月5、21日 10月3、30日 11月13日	<p>地域向けワークショップ(担当教員: 心理学科 谷本拓郎)</p> <p>ヨガとマインドフルネス瞑想を合わせた一般向けイベント。様々なマインドフルネス技法(呼吸瞑想、慈悲の瞑想、ボディスキャン瞑想など)について、座学及び実践を通じた体験型ワークショップを開催。姿勢調整や陰陽ヨガなど各種ヨガレッスンも実施。まちやの情緒的な雰囲気と親和性があり、複数回の参加者もいる。</p>
9月16日	<p>卒業生交流会</p> <p>多様な業界で活躍している光華の卒業生を招き、働き方や生き方について意見交換をする会を実施。まちやキャンパスが開所した昨年からはじめ、関東在住の卒業生も交え20代～50代の卒業生が交流している。(今年度スピーカーは公開講座の一覧を参照)</p>



まちや特別講座



ヨガとマインドフルネスワークショップ

4.6 光華もの忘れ・フレイルクリニック

2021年11月、本学構内に「光華もの忘れ・フレイルクリニック」を開院しました。早期相談によるもの忘れ(認知症)やフレイル予防等を目的に、地域の皆さまが安心して暮らせるよう地域包括ケアの一部として心と健康に寄り添ったクリニックを目指します。また、大学の併設施設として、介護や看護などの医療福祉に関する現場教育につなぐ、多職種連携や在宅ケア等に有効な実践力・応用力の養成を推進していく場としても活用してまいります。



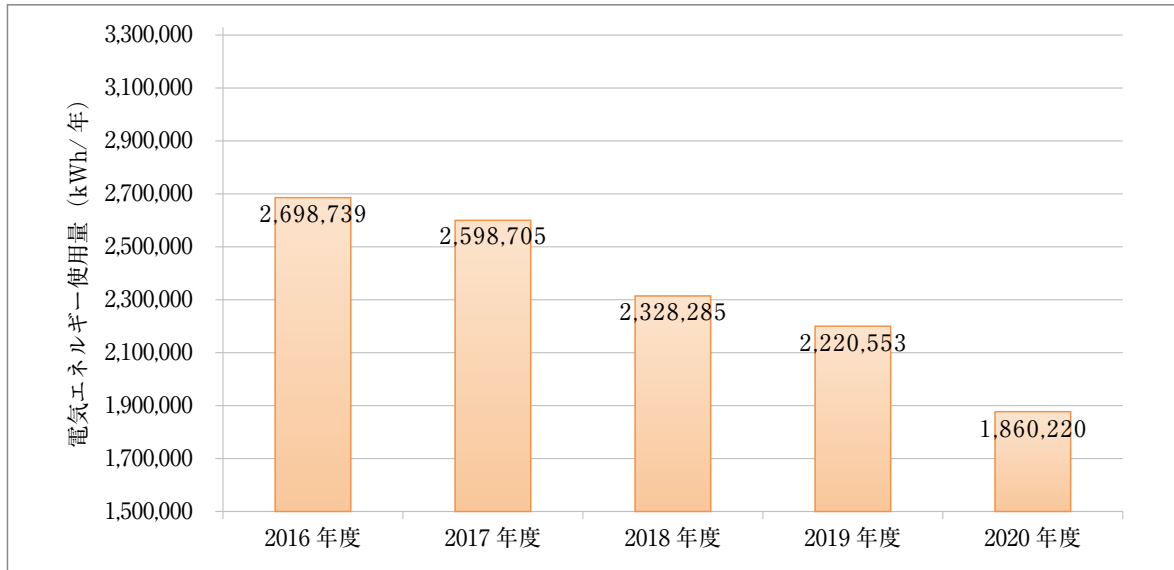
施設風景

5. エコキャンパスの推進



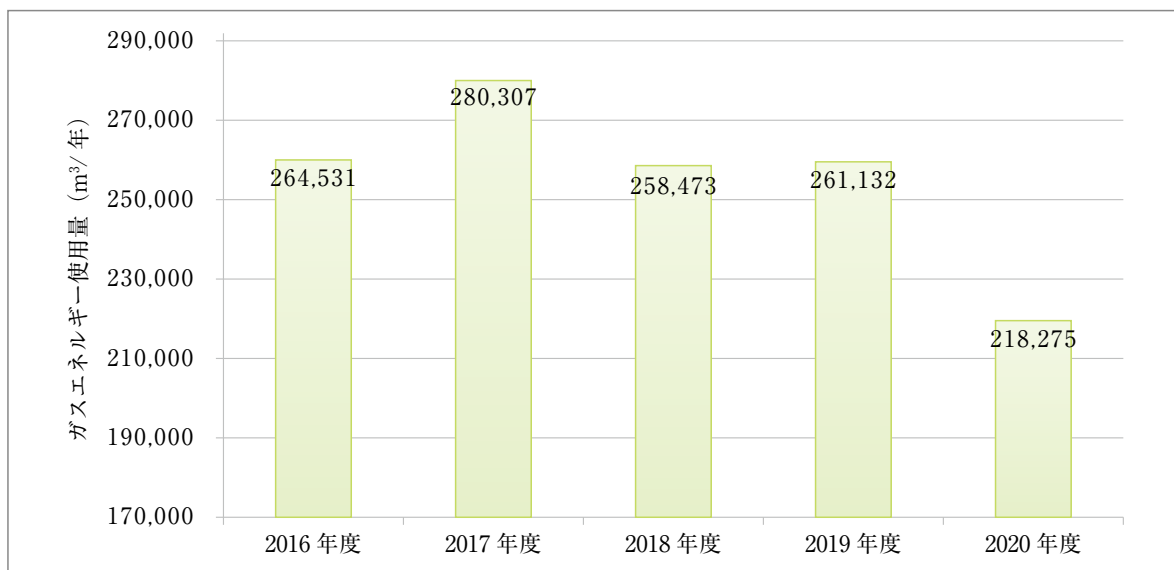
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量

① 電気エネルギー消費量



学園全体における過去5年間の電気エネルギー消費量は減少傾向にあります。この理由は、新型コロナウイルス感染拡大によるオンライン授業や節電対策として高効率型照明器具（LED）の導入の他、クールビズ・ウォームビズの実施が影響していると考えられます。また、電気（以下の、ガスも同様）エネルギー消費量の半分以上が北校地（主に大学）における使用であることから、ここでの使用状況は全体に大きな影響を及ぼします。2020年度の年間電気使用量1,860,220kWhをCO₂排出量に換算すると、約651トン（排出係数0.350kg-CO₂/kWh）となります。これは前年度と比較し、約257トン削減できたこととなります。

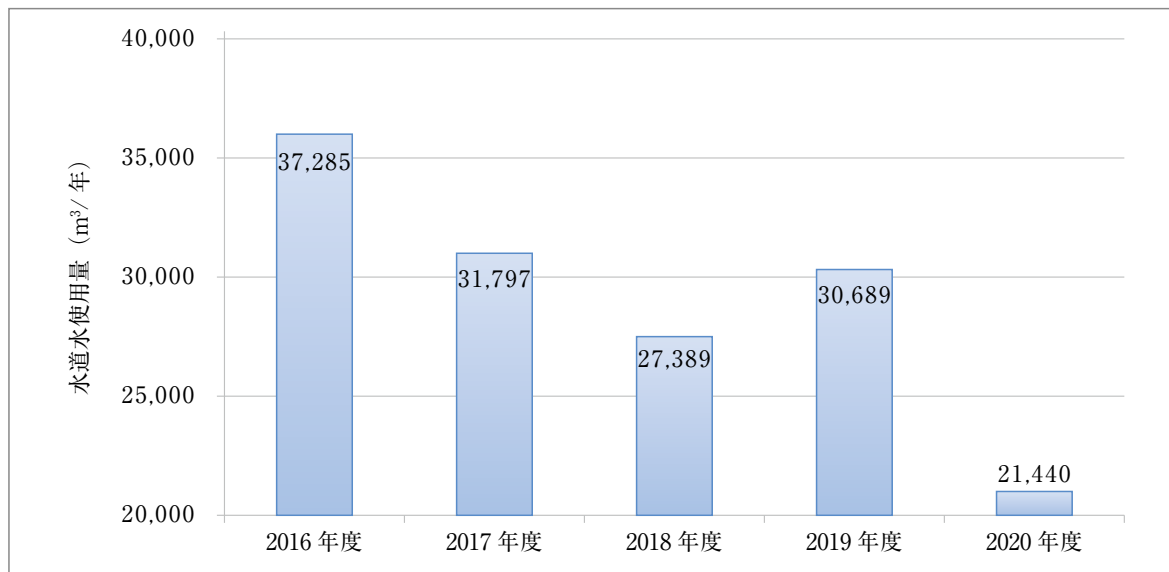
② ガスエネルギー消費量



ガスエネルギー消費量については、2018年度から2019年度にかけて上昇傾向にありましたが、2020年度は前年度に比べて約4万m³以上削減できました。これをCO₂排出量に換算すると約9.8トン削減できたこととなります（排出係数2.29kg-CO₂/m³）。

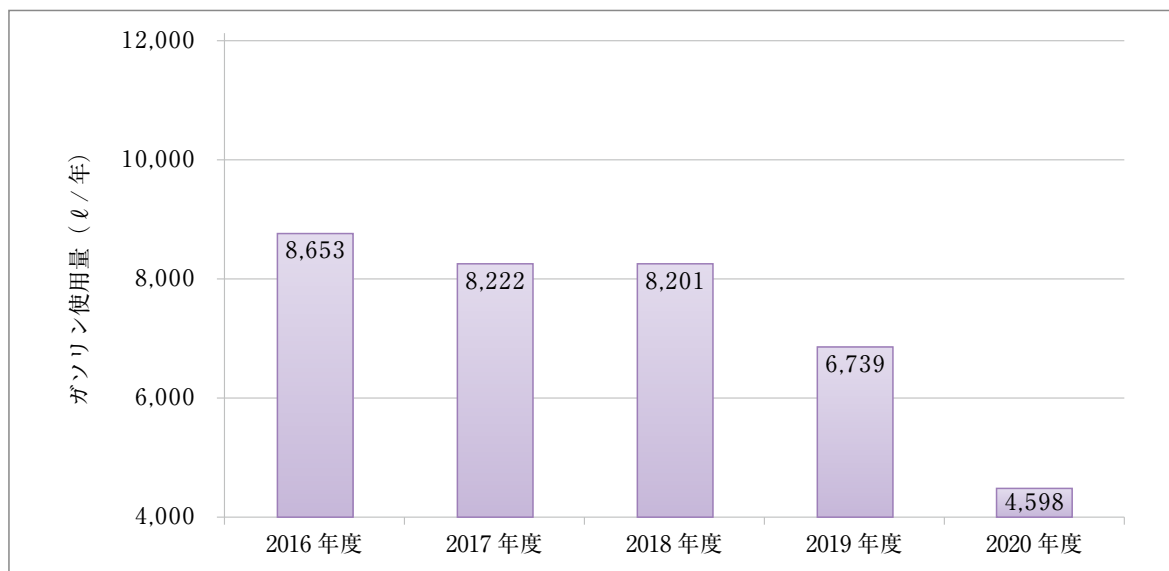


③ 水道水使用量



学園全体における過去5年間の水道水使用量は、2016年度をピークに迎え、その後若干上下するものの、全体として減少傾向にあります。大きな要因として、新型コロナウイルス感染拡大によるオンライン授業の導入他、トイレ改修工事を実施する際、計画的に節水式のものを採用していることや、南校地（小学校・中高校）については蛇口に節水金具を装備したことなどが考えられます。2020年度は前年度よりも約9000m³の削減することができました。

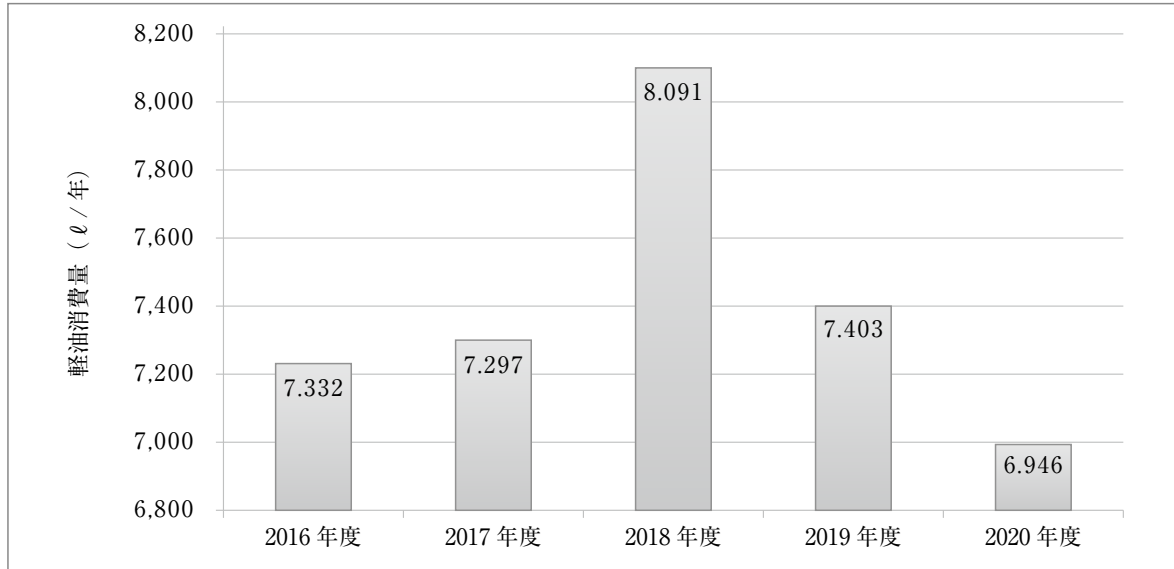
④ ガソリン消費量



ガソリン消費量の大半は大学および中高校の学生募集活動による公用車の使用によるものです。2016年度から、こまめなアイドリングストップなどのエコ運転を以前より心がけてきたため、減少することができました。さらに、大学公用車を使用した募集活動のエリア設定の変更の他、公共交通機関を使った活動が大きく影響しているものと思われます。新型コロナウイルス感染拡大により学生募集活動が制限されたことも考えられます。なお、2020年度のガソリン消費量4,598 ℓをCO₂排出量に換算すると、約10トン（排出係数2.322kg-CO₂/ℓ）となります。前年度に比べ6トン程度の削減量となります。



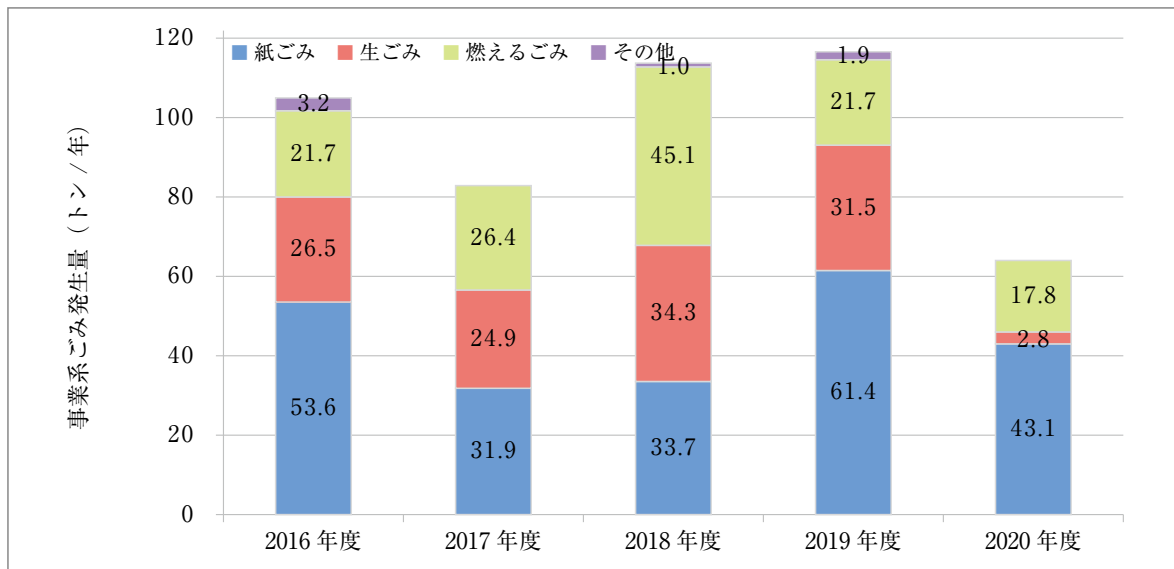
⑤ 軽油消費量



軽油消費量の大部分は幼稚園児送迎用のバス（ディーゼル車）によるものです。2018年度は前年度までと比べ大幅な増加となりました。これは幼稚園送迎エリアを拡大したことによる影響が大きいと思われます。しかし、2019年度以降はこまめなアイドリングストップの他、クラブ等の遠征による利用が減少したことが関係して減少している可能性があります。

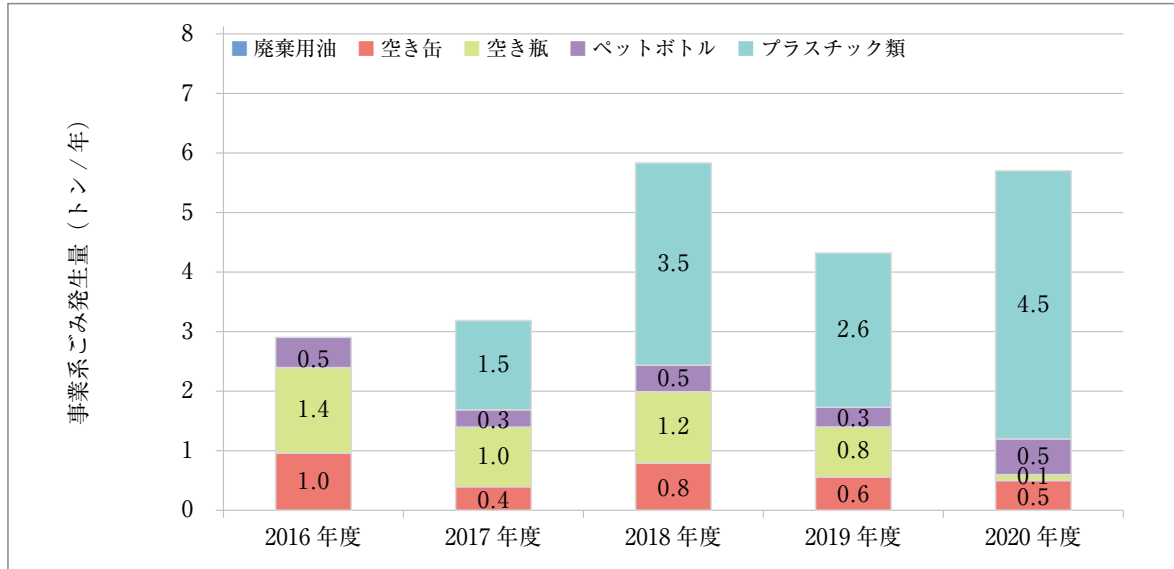
⑥ 廃棄物排出量

● 事業系廃棄物



2020年度は過年度に比べて、事業系廃棄物発生量は全体的に減少傾向にあります。項目別に見ると、特に生ごみ発生量が減少しています。これについては燃えるごみ、生ごみに混在する紙ごみ（いわゆる雑紙）を分別により紙ごみとして資源化できたことが要因のひとつです。徹底した分別により、ごみをごみとしてではなく再資源化する取組を今後も推進していきます。

●産業廃棄物



プラスチック類が2017年度に発生していますが、これについては、2016年度までは事業系廃棄物の「その他」の区分に含めて計上していたためです。2020年度の産業廃棄物発生量は昨年度に比べて増加傾向にあります。特にプラスチック類が前年度に比べて2トン程度の増加となりました。

5.2 KOKA エコアワード

平成22年の学園創立70周年を記念して設立されたKOKAエコアワードは、今年度で11回目を迎えました。この取組は幼稚園から大学・大学院までの本学園で学ぶすべてのものを対象とし、エコ活動を啓発する作品（エコアイデア部門、作文部門、標語・短歌（和歌）部門、ポスター部門、作品部門）を広く募集するものです。

皆様から合計1,250件の作品をご応募いただき、今年度は学園創立80周年記念式典において表彰をおこないました。



【趣旨】

「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆様はもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

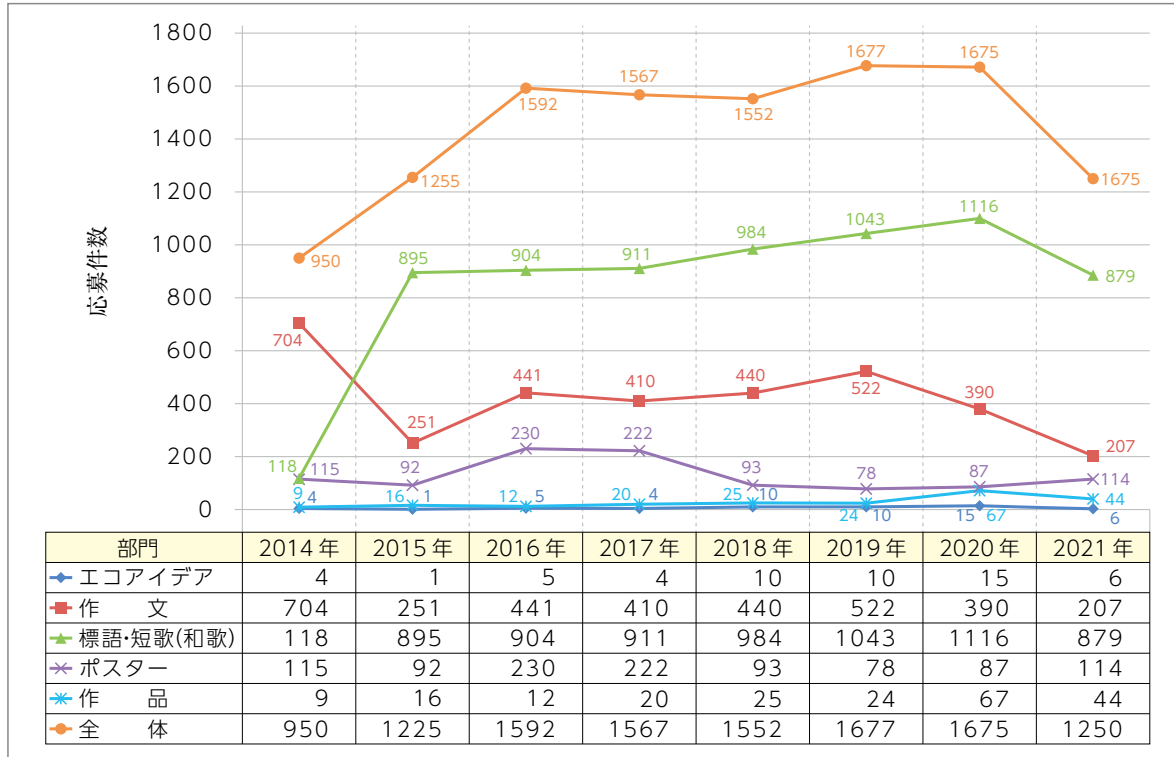
そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。

ついで、全校園よりエコ啓発の作品を募集し、優秀作品に各賞を授与、70周年記念式典において表彰いたします。併せて、学生生徒の皆さんの実践されているエコ活動も表彰したいと考えております。当日は会場内ロビーに作品展として掲出、さらに70周年記念棟（現間光館）キャンパスモールにも展示を計画いたしております。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項』より）



エコキャンパスの推進

●KOKAエコワード応募作品数の推移



●2021年度受賞作品（金賞・銀賞・銅賞のみ掲載）

※その他の入選作品等の情報は<https://www.koka.ac.jp/crc/>や<https://gakuen.koka.ac.jp/>に掲載予定です

①エコアイデア部門 *****

※<生徒・学生等の受賞作品> ※ 該当なし

※<教職員の受賞作品> ※



受賞者

「学食 de My お弁当箱」

学生サポートセンター 相原 真弓



受賞者

「KOKA マイボトル」

入学広報センター 新村 拓生

②作文部門 *****

※<生徒・学生等の受賞作品> ※



受賞者

「プラスチック問題について」

小学校4年 石橋 咲陽



受賞者

「海が輝くために」

小学校4年 竹井 海輝



受賞者

「地球温暖化について考えた事」

小学校4年 新田 衣鞠

③標語・短歌(和歌)部門 *****

※<生徒・学生等の受賞作品> ※

つなげよう
緑の大地 青い海
未来の君へ
それが責任



受賞者

高校3年
加藤 帆乃花

プラ食べた
魚を食べるの人間だ
減らそう守ろう
食物連鎖



受賞者

小学校4年
石橋 咲陽

バイト中
レジをする度
聞く言葉
「有料の袋 いらいますか？」



受賞者

キャリア形成学科
末吉 杏未

卒業生・保護者・関係先様等

金賞
受賞者 京都市ごみ減量推進会議
松村 香代子さん
「これはプラ?」「これは紙よ!」と
3歳の我が子と日々の資源分別

銀賞
受賞者 株式会社 T&Y 工務店
浦 章光さん
縄文の 貝塚すてに 分別と
博物館にて ハット気がつく

銅賞
受賞者 株式会社大阪ガスファシリティーズ
三輪 修司さん
海鳥の プラごみつくく 映像に
たまらず購入 風呂敷包み

教職員作品
銅賞
受賞者 就職支援センター
久保 暢彦
目の前に 落ちてるゴミこそ 自分事
これがホントの エコひいき

④ポスター部門

金賞
受賞者 「しぜんをたいせつに」
小学校 1年 藤井 杏梨


銀賞
受賞者 「ecoバックから
はじめよう!!」
中学校 2年 竹林歩乃香


銅賞
受賞者 「お花だらけの春で
遊びたい」
幼稚園 長井 冬結


⑤作品部門

金賞
受賞者 「海と魚」
小学校 3年 佐藤 宙


銅賞
受賞者 「宇宙をとぶ にじのロケット!」
幼稚園 八木 聡真


銀賞
受賞者 「みんながあつまる木」
幼稚園 山田 麗子


6. 各校園の環境教育、 環境活動



Koka Kindergarten



Koka Elementary School



Kyoto Koka Senior High School

Kyoto Koka Junior High School



Kyoto Koka Women's University

Kyoto Koka Women's College



6.1 光華幼稚園

① 野菜、果物の栽培収穫

五条通りに面した幼稚園ですが、畑にはたくさんの野菜や果物が実ります。今年、果物が大豊作！！
レモンやみかん、すいか！たくさん収穫することができました。

プチトマト



ニンジンノ種



土に肥料を
混ぜ混ぜー！
おいしい土になあれ！



優しく、
そーっとね！！



黄色になったよ！
とりたいなー！



葉っぱの匂いや
手触りを楽しんでいます

みかん



レモンとれた
よ！！



いい匂いがし
てきたよ！



スイカめっちゃ大
きいな！！



枝豆をはさみで枝
から離しています



マリーゴールドの種まき！！満開の花が咲いた園庭は、とても華やかです♪



小さい種を慎重に



たくさん咲いたね！お水どうぞー！

② 廃材の再利用

ペットボトル、トイレットペーパー、段ボールが大変身！！



色水あそび



ペットボトルを可愛く♪



どんぐりがたくさん！！

段ボールに絵の具で色を付け、劇遊びの電車作りをしました。



段ボールをぬりぬり♪

大きな電車にしようね！！



電車が完成！手作りの電車が素敵です！！

新聞紙や段ボール素材での製作も楽しんでいます！！



段ボールに毛糸を巻いてツリー作り！！

新聞を丸めて岩作り！！



園外保育で拾ったどんぐりをボールに見立て、手づくりおもちゃ作り



どんなコースにしようかな？



余った画用紙を使って、手づくりのおもちゃ作り！！
友達のコースにも挑戦♪

どっちが早くゴールに着くかな～？？

牛乳パックを再利用して、どんぐりボックスを製作！秋の遠足でたくさんのどんぐりを拾いました。



たくさん集めようね！



夢中になって集めています！！



③ 自然の物で遊ぼう

年長児が蒔いた「あさがお」の種。たくさんの花をつけました！！すり鉢で花をつぶし、色水作りを楽しみました！！年中児が蒔いた「ふうせんかずら」ハート形の種ができ、驚いていました。



あさがお



帽子と同じ色！！

こぼさないようにね！



ふうせんかずら



種、ハート!!!?



だあーれだ??



なんかいい匂いしない!?



コマ回しに挑戦!!



どんぐりの手作りコマ!



6.2 光華小学校

① 環境委員会の取組

「ペットボトルをワクワクして、楽しく回収できる方法があれば、みんな楽しんで積極的に、回収に参加してくるのではないのかな？」

環境委員会（4年生・5年生・6年生で構成）では、ペットボトルやペットボトルのキャップを集める為に、学校全体のエコ活動としての取り組みを考えました。

単に全校に呼びかけてそれらを、回収するだけではみんな、ワクワクしません。そこで、「思わず捨てたくなるような、回収ボックス」をコンセプトとし、面白さと遊び心を取り入れた回収ボックスを作ることを委員会で出しました。



そこで、ペットボトルのキャップに着目し、「誰もがキャップを入れたくなる」という想いを大切に、集める人のワクワクドキドキ感を念頭に入れて、回収ボックスの制作に取りかかりました。グループにわかれて、ダンボールとキャップをうまく組み合わせ、作っていきます。

回収ボックスの本体に使うダンボールも各学年のドリルや教材等が入っていた空き箱を用いて、再利用しました。

投入したキャップが円滑に落ちていくように、友達と一緒に何回もシミュレーションを重ね、試行錯誤しながら完成に近づけていきます。

例えば、キャップを入れた人が、最終的にキャップの落ちた場所で占えるというドキドキ感を演出したおみくじの要素を兼ね備えた回収ボックスや落ちた場所で「大当たり」・「はずれ」がある当たりくじの回収ボックスなどグループによって発想が多種多様です。作る側も楽しんでいるところが魅力的です。

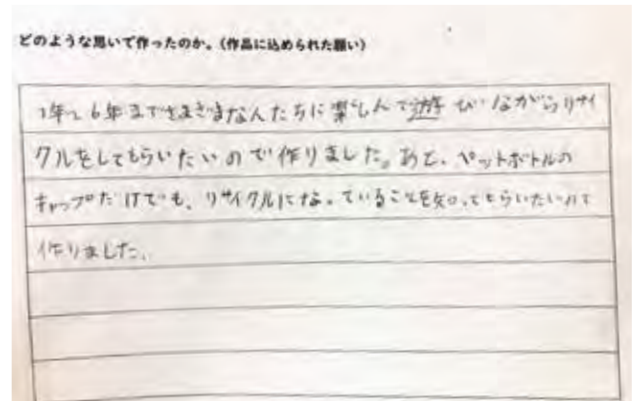
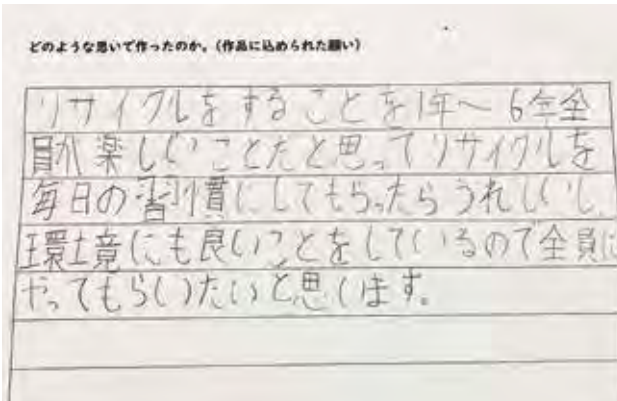
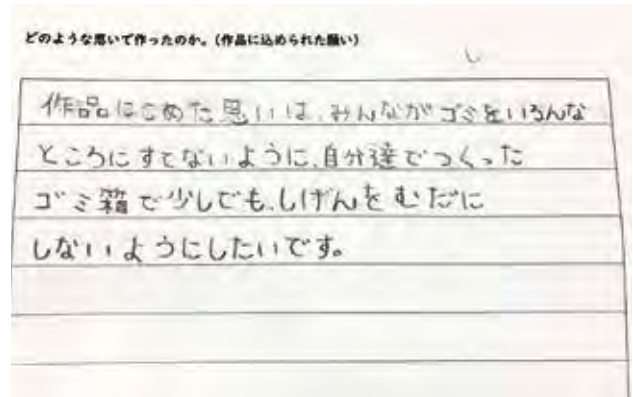
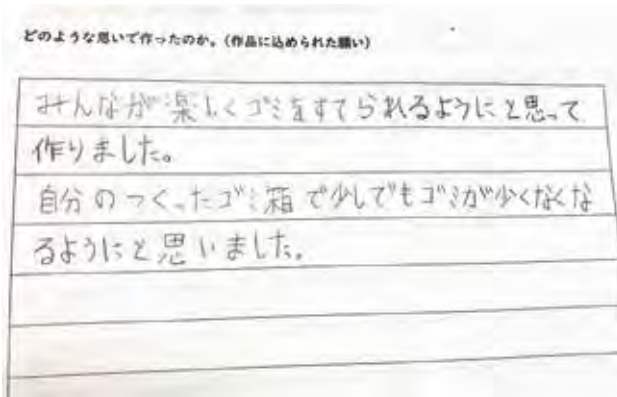
新型コロナウイルス感染拡大防止による「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置等」の発出により、異学年交流を断念せざるをえない時期もあり、作業が思うように進まないこともありまし

たが、できる範囲でみんな取り組みました。

今後、完成品は学校のそれぞれの場所に設置し、家庭で出たペットボトルの回収の啓発に向けて委員会で呼びかけていきます。

この作業の総括として、最後に一人ひとりが作品に込めた思いを書きました。委員会としての個々の取り組みは小さく、少しの歩かかもしれませんが、プラスチックごみなどの環境を考えるきっかけになってほしいと思っています。





② 小学校全体としての取組

◆ I 光華小学校環境の日

9月18日(土)に「光華小学校環境の日」として、全学年を通じて地球の環境について考える取り組みが行われました。この取り組みは、幸手会(保護者会)の主催で行われ、1年生～6年生12クラスの各教室でZoomにて環境に関する話を聞いたり、実際に意見を交流し、環境について考えたりしました。

① 阿部敏行学園長による環境の話

地球の温暖化に関する話がありました。学園長の言葉の中に環境問題は「1人の100歩より100人の1歩」…。みんなが同じ方向に向かって考え、取り組んでいくことが大切であると教わりました。

② 身の回りのプラスチック製品

ランドセルの中身から「プラスチックで作られているものは何か」を考えました。想像していたよりもはるかにたくさんのプラスチック製品があることに驚きました。

◆ II エコに関する作品の取り組み

今年は、幸手会(保護者会)を中心として全学年一人一作品を夏休みの宿題として、取り組みました。たくさんの素晴らしい作品が集まり、「KOKAエコアワード」の作品に出展しました。2名の児童が見事、金賞に輝きました。





6.3 京都光華中学校・高等学校

コロナ禍において様々な活動が制限される状況下ではありましたが、併設の京都光華女子大学の被採択プログラムへ継続的に参加し、制約の中でも工夫して環境問題に触れています。

① 京都光華女子大学被採択プログラムへの参加

京都光華女子大学の「リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験的学び～環境と防災をテーマとして～」プログラムの一環として、中高の環境ビ会員が園芸学ミニ講義とお花の寄植え体験に参加しました。

ミニ講義では、肥料の有効性などについてお話をいただき、園芸の世界に見え隠れする化学の要素を学びました。その後は実際に寄植えにチャレンジ。生け花とは異なり、これからどのように成長するかをイメージし、成長後の見栄えを意識しながら配置を決める必要があります。実際にエプロンも着用し、雰囲気としても本格的に取り組むことができました。生徒たちは各々の考えでオリジナルのコンテナガーデンを作っていき、昨年度とはまた違う雰囲気に仕上がりました。



寄せ植え中



レイアウト検討中



私のコンテナガーデンが完成しました！





6.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

① 大学等コアリションへの参画

文部科学省、経済産業省および環境省による先導のもと、2050年カーボン・ニュートラルに向けた積極的な取組を行っている、または取組の強化を検討する大学等による情報共有や発信等の場として、「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が令和3年7月29日に立ち上がり、京都光華女子大学もこのコアリションに参画することになりました。

本学はコアリションの5つのワーキング（WG）、「ゼロカーボン・キャンパスWG」、「地域ゼロカーボンWG」、「イノベーションWG」「人材育成WG」のうち、「人材育成WG」に参画します。ここでは、カーボン・ニュートラル人材を育成することを目的としていることから、KOKAエコアワードや企業、自治体などの連携実績を活かし、人材育成に関するこれらの実績をさらにこれらの情報を発信していきたいと思えます。

② JST助成事業「女子中高生の進路選択支援プログラム」が2年目に入りました

女子中高生の理系進路選択支援プログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世人材育成事業のひとつです。このプログラムは女子中高生の理系への進路選択を支援すること目的としています。採択テーマ「リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験的学び～環境と防災をテーマとして～」を通じて、今年度も多くの女子中高生の皆さんに、理系の学びを体験していただくことができました。ここではその中でも特徴的な取り組みをご紹介します。

❖ ②-1 春休みエコサイエンスツアー2021の開催 ❖

3月26日（金）、春休みエコサイエンスツアーを行いました（女子中学・女子高校14名と保護者1名の合計15名参加）。今回は、海洋・河川のマイクロプラスチック研究で世界的にご活躍されている京都大学地球環境学堂の田中周平先生から、最初はマイクロプラスチック汚染の現状について、ご自身の出演された番組や多くの写真を用いて分かりやすく解説してくださいました。続いて、大学院生のスタッフのご指導のもと、3グループに分かれて、実際に池で水を採取して微生物を観察し、特殊な顕微鏡を使って、海洋・河川で採取された微細なプラスチックを観察、分析させていただきました。また、実験中には、田中先生や大学院生のスタッフから、理系進路に関することや、学部の上に位置する大学院の話など、将来の理系キャリアに関する貴重なお話を伺うことができました。



❖ ②-2 数字でみる京都の環境問題（東稜高校での出張講義） ❖



2021年7月12日（月）、京都府立東稜高等学校の生徒27名（女子7名、男子20名）、教員1名を対象に、「数字でみる京都の環境問題」と題して、出張講義を行いました。この講義では、最初に、日本全国におけるシカによる被害状況の推移について、グラフを用いて説明し、次に、京都府における被害状況や捕獲状況、さらにシカ肉利用状況について統計学的な観点から説明しました。次に、日本の森林の歴史について触れ、京都の山林には放置竹林が多く、その背景にはモウソウチクが外来主として薩摩に渡来したことや、竹の利用頻度が低下している

ことなどを紹介しました。そして、これらの問題を解決するために、新たな付加価値創生の観点から、竹パウダーを利用した農法について、化学的な観点から説明しました。



❁ ②-3 プナ・アシウスギ天然林サイエンスツアー2021の開催 ❁



2021年10月3日(日)、プナ・アシウスギ天然林 サイエンスツアー2021を実施し、教員2名、保護者2名、女子生徒中学1年生2名、高校1年生2名、高校2年生5名に参加いただきました。このツアーは京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林の全面的なご協力の元で実施されました。最初に、芦生研究林長の石原正恵先生から、同ツアーに関する注意事項やポイントが述べられ、マイクロバスで山頂まで登り、フィールドワークが開始されました。これまで見たことのない、まるで映画「もののけ姫」の世界に迷い込んだような幻想的な風景に、参加した女子中高生は感動している様子でした。途中のシカやクマによる食害を調査しているエリアでは、これらの調査には極めて長い年月を必要とすることや、さまざまな最新技術が適用されていること、さらに、女性の研究者でもある石原先生からは、森林研究の魅力や楽しさについてお話をいただきました。当日は、雲一つない秋晴れで、最高のフィールドワーク日和になりました！

❁ ②-4 公開講座「森里海(もりさとうみ)連環学」を実施 ❁

2021年10月4日、東稜高校2年生37名(女子11名、男子26名)、教員2名を対象に、公開講座「森里海連環学」を実施しました。第一部は、本学の高野拓樹教授が、JST女子中高生の理系進路選択支援プログラムの概要説明と、環境と防災を学ぶ高校生に、これらを学ぶことに対する理系からのアプローチの重要性について述べました。途中、クリッカーを使った理系進路への興味関心度調査も実施しました。続いて、今回の公開講座のメインとなる第二部では、京都大学フィールド科学教育研究センター教授の徳地直子先生から「森里海連環学と私たち」と題してお話をいただきました。講義では、自然と私たちがつながっていることを見直す森里海連環学の概要をご紹介いただき、現在進行中の有田川でのシチズンサイエンスによるアマゴ調査に関する内容をご説明いただきました。講義を通じて、私たちの生活とサイエンスの結びつきや重要性について考える機縁となりました。



❁ ②-5 第19回高大連携教育フォーラム(オンライン)に参加 ❁



2021年12月4日(土)、大学コンソーシアム京都が主催する第19回高大連携教育フォーラム(オンライン)が開催され、第2部の【理科】の分科会において、本学の取組を紹介しました。このセッションには15名の高校教育関係者にご参加いただきました。はじめに、ノートルダム女学院中学高等学校のSTE@M探究コース長の野々垣雅稔先生から、同校における「総合的な探究の時間」における取組が紹介されました。続いて、JSTの女子中高生の理系進路支援プログラムを3期目となる同志社大学の取組「科学するガールズ」が同学理工学部教授の松川真美先生から紹介され、サイエンスキャンプなどを

通じた先進的な取組が紹介されました。そして、最後に本学の取組「リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験の学び」を紹介させていただきました。同志社大学も本学も保護者へのアプローチという共通の課題があり、これらの課題を解決するためのお互いの強みを共有することができた大変有意義な時間となりました。

7. 第三者によるご意見

7.1 地域連携報告書に寄せて

京都光華女子大学・同短期大学部地域連携報告書を拝見し、まずは地域に根差し、地元行政と連携した大学の地道な活動に敬意を表したいと思います。

ここで取り上げられているテーマは、環境問題をはじめ、地域コミュニティ、健康長寿、子育て支援といった、今日、持続可能な社会の達成のために最も重要な課題となっているものばかりですが、学生の独自の視点や軽快なネットワークで様々な発見を行っています。

また、市内中心部の町家における町中キャンパスの活用も、京都ならではの伝統文化体験に寄与する取組として特筆に値します。

SDGsの推進をはじめ、持続可能な社会を実現するためには、まさに地域社会の在り方を見据えつつ、「自分ごと」として取り組むことが重要です。

その意味でも、京都光華女子大学・同短期大学部が地元行政区である京都市右京区役所と緊密な連携を積み上げて来られていることは、大都市における地域連携活動として先進的かつ不可欠な要素であると考えます。

本事業を契機に、区行政を通じて地域コミュニティとの連携を進める取組が、今後も発展していくことを念願しています。

レジリエント・シティ京都市統括監
元京都市副市長
藤田 裕之



7.2 環境報告書に寄せて

まずは、エコキャンパスの推進、各校園の環境教育・環境活動など貴学における様々かつ真摯なお取り組みに対して深く敬意を表します。

各章、各節に至るまで、数字に基づく記述、生徒を中心とした実活動写真掲載による実行ベースのご報告など、実態を活写しているところが素晴らしく、素直に感動いたしました。

とりわけ、環境教育・活動の章においては、光華幼稚園から光華小学校、京都光華中学校・高等学校、そして京都光華女子大学・同短期大学部に至るまで、環境をキーワードとした貴学ならではのシームレスに一貫した教育・活動がなされている点が他に類を見ないものでした。すなわち、学生時代の一時の、または細切れの環境教育・活動ということではなく、個々の人生の中で自然と培われていくということであり、自ずと身についていくところを高く評価いたします。

学校法人新潟総合学院 開志専門職大学
副学長（学長代行）・教授
京都大学名誉教授・同大学院総合生存学館特任教授
櫻井 繁樹



Koka's Heart*

よりそい 育む
一人ひとりをしっかりと

地域連携推進センター教職員

吉田 咲子 (センター長・大学 キャリア形成学科) 加藤 千恵 (副学長 (社会貢献担当)・大学 キャリア形成学科)
小竹 梓 (センター職員) 辰巳和可沙 (センター職員)
水道 裕久 (大学 健康栄養学科) 貞岡 美伸 (大学 看護学科)
千野美和子 (大学 心理学科) 関 道子 (大学 医療福祉学科)
山崎 玲奈 (大学 こども教育学科) 羽深 太郎 (短期大学部 ライフデザイン学科)

環境教育推進室教員

高野 拓樹 (室長・大学 キャリア形成学科) 間浦 幹浩 (中学校・高等学校)
吉岡 寛和 (小学校) 室田志桜里 (幼稚園)

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 地域連携報告書
光華女子学園 環境報告書 令和3年度版

令和4年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター・環境教育推進室

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38
URL : <http://www.koka.ac.jp/crc/> (地域連携推進センターHP)

本環境報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。
お問い合わせ : <https://www.koka.ac.jp/crc/contact>



地域連携推進センターHP



学校法人光華女子学園

京都光華女子大学大学院

京都光華女子大学

京都光華女子大学短期大学部

京都光華高等学校

京都光華中学校

光華小学校

光華幼稚園

